

呼吸器科

診療科紹介

常勤医2名で家庭的な雰囲気の中、呼吸器科の診療を行っています。気管支鏡は年間約100例、診断の内視鏡だけでなく喘息の治療のための気管支サーモプラスチックなども導入しています。呼吸器診療に興味のある方は是非ご相談ください。

普段診療する疾患

感染症：肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺アスペルギルス症、サイトメガロウイルス肺炎などの診療を行っています。近年、結核の減少と反比例して非結核性抗酸菌症が増加の一途をたどり、診断・治療・難治例への対応を学ぶことが出来ます。

悪性疾患：肺癌・胸膜悪性中皮腫に対して肺癌ガイドラインに基づいた標準療法を提供しております。

通常、殺細胞性抗がん剤に加え、分子標的薬、免疫チェックポイント療法、これらの併用療法も可能です。また、放射線治療科、呼吸器外科もあり、集学的な肺癌治療も行えます。LC-CSRUM-Asia参加施設です。

気管支喘息・COPD：難治例やコントロール不良例が主に当院に紹介されます。難治例に対しては抗IgE抗体や抗IL-5抗体に加え抗IL-4.5.13抗体療法も使用可能です。薬物療法に反応しない難治例にもサーモプラスチックで内視鏡治療を行うこともでき、手技取得に興味のある方にはトレーニングを提供できます。またモストグラフやヴィンセント等の新規検査装置を用い他の検査で検出の難しい気道障害の検出も試みています。

びまん性肺疾患：近年疾患の分類と治療法がかわり一般医の先生で何時まで観察すべきか？また診断は？悩まれることが多い疾患群です。特発性間質性肺炎（UIP、NSIP、DIP、RB/ILD、COP、LIP、AIP）だけでなく二次性間質性肺炎（膠原病性、薬剤性、職業性、アレルギー性他）や他の各種びまん性肺疾患（サルコイドーシス、肺胞蛋白症、過敏性肺疾患、好酸球肺炎）の症例も経験できます。

気道疾患：気管支拡張症、びまん性汎細気管支炎（DPB）などは積極的にマクロライド少量持続療法を導入するとともに併存症の加療を行っています。

希少疾患：LAM（リンパ脈管筋腫症）、LCH（ランゲルハンス組織球症）、BO（閉塞性細気管支炎）などの診療を行っています。必要に応じて大学病院や移殖可能施設へのご紹介を行っています。

睡眠時無呼吸症候群：PSGでの結果をふまえて外来でCPAP導入を行っています。OSAHS, CSAHSいずれも対応いたしますが、安定した方はかかりつけ医にご紹介することが多いです。

当院は地域の救急を担う病院です。様々な呼吸器疾患を経験する事ができますし、当院で適正な治療を提供差し上げることができます。また、患者さん第一ではありますが、医師の働きやすさも重要と考えております。良い労働環境が提供できるよう、こちらも最大限努力いたします。

